



かがやく浜の子

平成30年度 7月号

平成30年度重点目標 気づき 考え 行動する子 「自分から みんなで」

対話の力

サッカーワールドカップロシア大会が、盛り上がりの中、フランスの優勝で幕を閉じました。日本チームは、1勝もできないのではないかと危惧されていましたが、決勝トーナメントへ進出し、その戦いぶりは感動を呼ぶものでした。大会後には選手たちが、「もっと、このチームで戦いたかった」「これでチームが終わってしまうのが寂しい」「こんなにも、チームの仲間が好きになるとは思わなかった」などと、チームや仲間への愛情を口にしました。こうした言葉から、いかに代表チームの結束が強かったのかがわかります。

チームがまとまった要因には「『対話』によるチームづくり」があったように思います。西野監督は、最初のミーティングで「俺は世界を知らない。みんなの意見を聞かせてくれ」と切り出し、その後の対話が活発に行われたそうです。また、初戦の2日前、キャプテン長谷部選手の考えで選手ミーティングが開かれ、23人がそれぞれ胸に秘めた思いを明かしたときには、普段聞けない本音が飛び交うほどに白熱し、チームが一つになったのです。ラスト10分のボール回しが物議を醸し出したポーランド戦後には、西野監督が全選手、スタッフに「誇りを持たせるような戦い方ができなくて申し訳なかった」と伝えたことで「次のベルギー戦で何か言う人を見返してやろう。」と、結束がより強固になったそうです。

*

現在、社会は、グローバル化、技術革新、AIの飛躍的進化等により急速に変化しています。PTA総会の時にも言及しました、今の子どもたちの65パーセントは大学卒業時に今はない職業に就くという予測をしている大学教授もあります。予測困難な時代に生きていく子どもたちには、変化に積極的に向き合い、他者と協力して課題を解決していくことや新たな価値を創り出すことが一層重要になってくると考えられます。そこで、必要となるのは、対話の力です。2020年度から、実施される小学校学習指導要領（小学校の学習内容を示したもの）にも、授業の視点として「主体的・対話的で深い学び」が位置づけられています。

*

本校では、「温かく聴く・わかりやすく話す」を授業態度の基本として、相手を意識して対話をするを子どもたちに指導しています。また、平成28年度から、教員研修や学級づくりの核として進めてきている生活科、総合的な学習「はばたき学習」では、1学期に各学級で、何のために何を実践するのか、教員と子どもたち、子どもたち同士で対話を重ね、今後の取組を決定できました。さらに、地域の方々やその道の専門家から、対話を通して御指導や御協力を得ながら学習を深めてきました。学校教育の中心は授業です。今後も対話を通じた学びを積み重ねることで、サッカー日本代表の中でチーム愛が育まれたように、学級愛や学校愛、そして地域愛が育まれることを願っています。



2年1組 やさいをそだてよう



3年2組 白小公式キャラクターをつくり



5年1組 スポーツ大会を開こう

保護者、地域の皆さん、1学期間、白羽小学校の教育活動について御理解と御協力をいただき、感謝申し上げます。27日からの夏季休業中に於きましても、子どもたちの健やかな成長への御支援をよろしくお願ひします。一番の願ひは、子どもたちが事故や事件に巻き込まれることなく、2学期また元気に登校できることです。（文責 校長；石谷）